

通貨レポート：メキシコペソ

ポイント① メキシコペソは軟調に推移

メキシコペソは、資源価格の下落や中国経済の減速懸念、米国の利上げ観測などを背景に2015年央以降、他の新興国通貨とともに下落基調で推移しました。さらに、2016年の年明け以降は、原油価格の急落などもあり、2月11日には対米ドルで19ペソ台の史上最安値を付けました。その後、原油価格の反発などによってやや回復しましたが、2016年5月10日時点では、対米ドルで年初来5.3%のメキシコペソ安となっています。

ポイント② メキシコペソに出遅れ感

図2は、各通貨の対米ドルのリターンに金利から得るリターンを加算したトータルリターンを表しています。2015年はメキシコペソを含めた多くの新興国通貨のリターンがマイナスでしたが、2016年はメキシコペソ以外はプラスに転じており、メキシコペソには出遅れ感があります。その背景の1つとして、米国大統領選挙を巡る不透明感が考えられます。メキシコは米国との経済的な結びつきが強く、米国向けの輸出の割合が大きいため、米国大統領選挙の行方がメキシコ経済に与える影響も懸念されています。

ポイント③ ファンダメンタルズは安定

一方、メキシコのファンダメンタルズ(経済の基礎的条件)は安定しています。2016年4月のインフレ率(消費者物価指数)は前年同月比+2.54%と、メキシコ中央銀行のインフレ目標の中心値(+3.0%)を下回っています。また、2016年1-3月期の実質GDP(国内総生産)成長率は、前年比+2.7%と10-12月期の同+2.5%を上回りました。国内の個人消費の拡大などにより緩やかな成長が続いており、経常収支も小幅な赤字で安定しています。

メキシコ財務省は、メキシコ中央銀行が緊急利上げを決定した2月17日、2016年の歳出を対GDP比で約0.7%削減すると発表しました。2017年予算にも歳出削減を盛り込むと示唆しており、財政健全化に向けた姿勢を見せています。

足元、軟調に推移しているメキシコペソですが、ファンダメンタルズの堅調さから勘案すると、やや売られすぎとも考えられます。

重要
イベント

5月25日	経常収支(1-3月期)
6月9日	消費者物価指数(5月)
6月30日	金融政策発表

図1：為替レートの推移



図2：各通貨の金利を含めたトータルリターン(対米ドル)

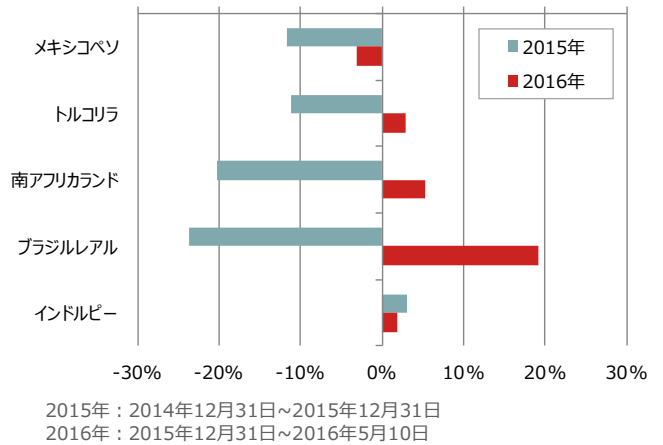
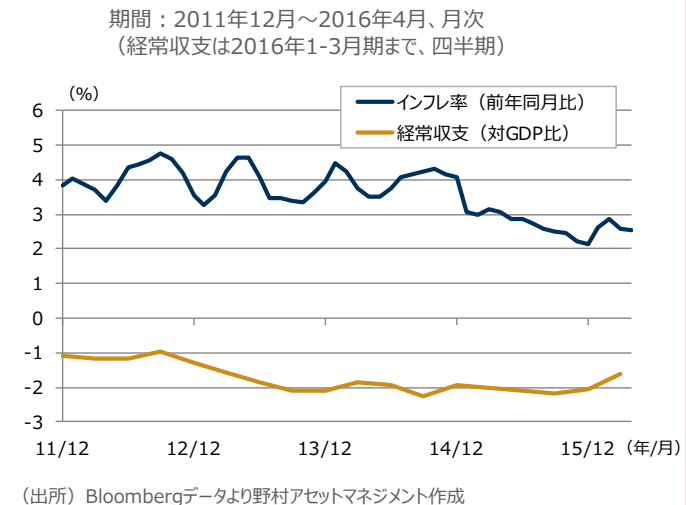


図3：インフレ率と経常収支



当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆しない保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。